

2022年12月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 12月えんだより

12月の聖句 「さあ、ベツレヘムへ行こう。」

ルカによる福音書 2章8節 ～ 20節

朝夕、そして、日中の寒さも日に日に厳しさを増し、いよいよ本格的な冬の到来です。街の中ではクリスマスが近づいていることを感じられる景色が多くみられるようになってきました。こども園でもクリスマスを迎える準備が始まっています。寒さに負けず、すこやかにクリスマスを迎えることができるように祈っています。

2013年、南アジアの小さな国「ブータン王国」が、「世界一幸せな国」の幸福度ランキングで北欧諸国に続いて8位となり、「世界一幸せな国」の一つとして知られるようになりました。多くの国民が、「雨風を防ぐ家や食べ物があり、家族がいるから幸せだ」と語っていたそうです。経済指標の一つであるGDP（国民総生産）が決して高くないブータンで、人々の幸福度が高い要因には、国民から尊敬されて人気も高い国王の下、医療費や教育費が無償といった福祉の手厚さもあったようです。また、国もGDP（国民総生産）よりGNH（国民総幸福量）を尊重し、様々な政策を進めていることも影響していたようです。

それからわずか6年後の2019年、ブータン王国の幸福度ランキングは156か国中、95位となり、それ以降、このランキングには登場しなくなりました。なぜこのようなことになったのか。理由の一つとして考えられているのは、それまで入ってこなかった他国の情報が入ってくるようになり、比較できるようになったことで、「隣の芝生が青く見える。」ようになったことだそうです。かつて、多くのブータン国民が語っていた「雨風を防ぐ家や食べ物、そして家族」といった幸せの要素が失われたわけではありません。変わったのは、自分たちのものより立派な家や豊かな食事、そしてその中で暮らす家族の姿を自分たちと比べたことで、幸福度が下がってしまったのです。

イエス様がお生まれになった時代、住む家もなく、羊と共に野原を移動し、時には羊を守るために自らの命を失うこともあるような「羊飼いは」社会の底辺に位置づけられていました。当然のことながら、神様について学んだりする機会もほとんどなかったのではないのでしょうか。そのような中で育ち、自分の心の中に拠り所や支え、誇り、といったものを育む機会さえ得ることがなかったのではないかと思われる「羊飼いは」の下に、神様からのすべての民に大きな喜び（イエス様の誕生）が告げられたのです。当時の「羊飼いは」は、その意味を十分に理解できなかったかもしれません。けれども、その言葉を信じ、その出来事（イエス様の誕生）を見るためにベツレヘムへ向かい、そこで飼い葉桶に寝かされた乳飲み子イエス様の姿を目にしたのです。この羊飼いたちの幸福度は・・・。

今この時も戦禍の中にあるウクライナの人々の幸福度は昨年より上位に。一方、ロシアの人々の幸福度は昨年度より下位になっています。この両者の違いは、命が脅かされる中であっても、明日への希望を持てる者と持てない者の違いのようにも感じられます。

自分自身、身近な人々、そして、世界中に人々が希望をもって歩むことができることを祈りつつ、子どもたちと共に神様の「愛」を知り「平和」を広げる歩みを続けていけるように願っています。

12月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	うれしいね	喜び合う
月の願い	*アドヴェントカレンダーの飾りが、ひとつずつ増える様子を見ながら、友だちや保育者とクリスマスを迎える喜びを感じ、楽しみに過ごしたいと思います。	*イエス様の誕生の喜びを友だちや家族と一緒に感じ、楽しみに過ごす中で、周りの人の事を思い、自分にできることを考えながら過ごしてほしいと思います。
讃美歌	「おほしがひかる」 こども改77	「きよしこのよる」 こども改74